

交流人事教員としての教職支援へのかかわり

—教職自主サークルの新しい展開—

谷本 里都子 ・ 毛利 猛 ・ 植田 和也
(学校教育) (学校教育) (附属教職支援開発センター)

宮前 義和 ・ 田崎 伸一郎 ・ 高木 愛
(附属教職支援開発センター) (生活・総合) (学校教育)

760-8522 高松市幸町1-1 香川大学教育学部

On Schoolteaching Supports from Exchange Personal Teachers: New Stages of Student's Voluntary Schoolteaching Club

Ritsuko Tanimoto, Takeshi Mouri, Kazuya Ueta, Yoshikazu Miyamae,
Shinichiro Tazaki and Megumu Takagi

Faculty of Education, Kagawa University, 1-1 Saiwai-cho, Takamatsu 760-8522

要 旨 「顔の見える教職支援」というキャッチフレーズのもと、香川大学教育学部の手厚い教職支援が行われてきた。交流人事教員は学生主体の教職自主サークルへの支援に大きくかかわり、教員採用選考試験でも大きな成果をあげた。一方、他学部を含む、教員志望者の増加や卒業後の対応等が新たな課題として見えてきた。学生の自主性の育成等、今後、教職自主サークルが果たす役割は、今まで以上に大きくなってくると考えられる。

キーワード 教職支援 交流人事教員 教職自主サークル 卒業後のフォローアップ
学生の自主性

1 はじめに

2003年度より、香川大学教育学部と香川県教育委員会との人事交流が始まり、現在13年目を迎えている。¹⁾ 現在では、全国で30を超える大学において取り入れられている。これまでも本学における交流人事教員の活動や実践報告等については、植田(2007)や植田、大西、池西、谷本(2014)等で示されてきた。また、²⁾ 最近の全国の状況については、保坂(2015)で紹介されている。本学では教育学部の学校教育講座(教職実践)に所属し、原則3年間の任期の中で、校種や専門性を生かしながら、教職志望の

学生に指導を行っている。具体的には、「学部等における授業」、「教職支援」、「教育実習における支援」、「教職実践に関するその他の支援」である。

上記の「教職支援」の一つとして、「教職自主サークル」への指導・助言を行っている。「教職自主サークル」は、2003年度に創設され、現在に至っている。教職を目指す学生の自主的な勉強会であり、毎週月曜日の18:00~19:30まで、教員採用選考試験に向けて、世話人の学生が主体となり、企画・運営している。交流人事教員は、学生からの依頼を受けて、集団討論、模擬授業、小論文の講義を行ったり、学校での

経験を踏まえた指導・助言を行ったりして、サポートしている。以下、香川大学教育学部の教職支援における「教職自主サークル」の果たす役割と意義について述べる。

2 香川大学教育学部における教職支援

本学部附属教育実践総合センター（2014年度から附属教職支援開発センターに改組）では、2013年度、2014年度に³⁾「教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト」が実施された。そこでは、香川大学教育学部で行われている教職支援の現状や成果と課題について研究を進めてきた。本章では、そこでの研究を整理して述べる。

（1）香川大学教育学部における教職支援の柱

上記の研究プロジェクトでは、香川大学教育学部における教職支援の柱を①教職への志望動機を高めること ②教職に関する悩みや相談への対応 ③教員採用選考試験に関する対応の3本であると捉えている。つまり、教職支援の対象は、4年生だけではなく、1年生から大学卒業までの4年間を見通したものである。本学部における教職支援は、先行研究や他大学の教職支援と照らしてみても、一人一人の学生理解に基づく「顔の見える教職支援」であり、かなり手厚いものである。また、4年生の教員採用選考試験が終了した後も卒業前の直前指導や卒業後のフォローアップも教職支援の対象であると考えている。

（2）日常的な取り組みと教職支援における成果・課題

①日常的な取り組み

教職支援より以前に、挨拶や時間厳守、教室の環境整備等、社会人として「当たり前のことを当たり前にする」ことを率先垂範し、その姿を学生に見せる。例えば、授業前に教室のごみを拾ったり、黒板をきれいに消したりする等、教員としては当たり前のことを普通に行った。気が付くと周りの学生も自然に

ごみを拾ったり、クリーナーで黒板消しをきれいにしてくれたりするようになっていった。将来、教員になる学生にとって、環境整備の重要性を知る機会でもあり、背中で見せることの大切さも含んでいる。

学生の人数は多いが、授業を通して、学生の名前を覚えることは学生の意欲や自己肯定感を高め、信頼関係を構築するためには重要である。「〇〇さん、先週の授業に来てなかったけれど、体調が悪かったの」と授業前にある学生に聞くと、学生は「先生は私の名前を覚えているだけでなく、私先週この授業を欠席していたことも知ってくださっているんですね」と答えた。小・中学校では当たり前なのやりとりではあるが、大学生にとっては新鮮であるようだ。

授業では、授業に臨む姿勢や学習態度、グループワークへの熱心な取り組み等を賞賛したり、学習への助言を行ったりすることで、学生の意欲を向上させる。また、子どもへの声かけや授業技術について触れながら、授業内容を深めていくことで、より実践的な教職支援に結び付ける。

教育学部では、出席表に学生が感想や質問を記入する授業が多い。出席表に学生が書いた感想を点検し、コメントを記入する。次回の授業で、返却された出席表のコメントを読んでニコツとしている姿は小・中学生と変わらない。また、授業での学生の学びや質問を次回の授業の最初で紹介することで、双方向性をもたせたり、授業は子どもとともに作りあげるものであることを意識させたりすることができた。

②成果

「顔の見える教職支援」というキャッチフレーズのもと、授業や学内外での積極的な声かけを行うことで、学生との信頼関係を構築した結果、交流人事教員の研究室を訪れる学生は非常に多い。進路相談、願書の添削、面接練習、模擬授業の練習、小論文の添削等、学生一人一人の個性に応じた個別相談により、有効な教職支援が行われている。

また、2014年度からは、各教員の相談可能な時間を示すスケジュールボード（写真1）を設置することで、相談しやすい環境整備や雰囲気づくりを行った。学生に願書の添削指導手順について説明した後、教員のスケジュールボードの前で自分のスケジュール帳を見ながら指導を受ける日程を考えている学生が多くいた。このスケジュールボードのおかげで教員も計画的に添削指導を行うことができた。

スケジュールボードの近くに、教員採用選考試験に関する情報や就職セミナー等のパンフレットを掲示（写真2）した。掲示板を見ている学生に補足説明をする等、意図的な声かけも有効であった。



【写真1 スケジュールボード】



【写真2 教職関係の掲示物】

③課題

願書の添削指導は、個別相談であり、同じ時期に多くの学生が来室するため、対応人数には限界がある。学生一人一人に応じた手厚い教職支援であるがゆえに、学生が教員に依存してしまう傾向もある。どこまで教員が手をかけて、どこからは学生を自立させるのかは以前からの課題の一つである。

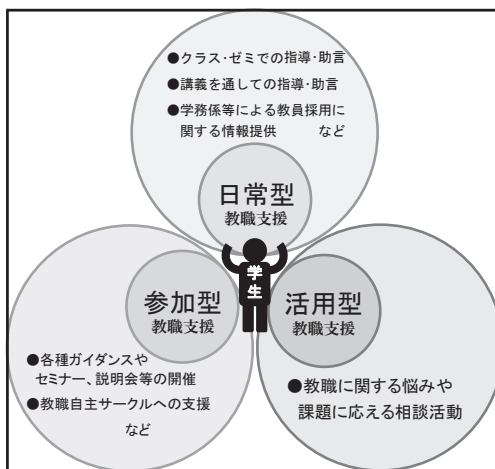
また、様々な情報が一元化されていないために、どこで、どのような情報を得ることができるのか、わかりにくい。各教員のスケジュールボードを提示しても、だれにも相談に行けない学生への支援や他学部の学生への情報周知に課題が残る。

(3) 教職支援の3つのタイプ

そこで、成果と課題を踏まえ、すでに香川大学教育学部で行われている個々の教職支援に有機的なつながりをもたせるような体制を構築しようとする研究プロジェクトでは、香川大学における教職支援を図1のように3つのタイプに分類した。

I…日常型教職支援

- ・各ゼミや1年生のクラス担任等、担当教員による進路に関する個別相談や支援
- ・講義や実地教育を通じて、教職に対する意欲向上や資質能力形成に関する支援
- ・学務係や学生支援委員会等における各自



【図1 教職支援の3つのタイプ】

治体の教員採用選考試験に関する情報の提供等

3つのタイプの中でベースとなる支援

II…参加型教職支援

- ・集団向けに、年間を通じて計画的に開催される各種のガイダンス、セミナー、説明会等
- ・前述の教職自主サークル

III…活用型教職支援

- ・個人が必要な時に状況に応じて、附属教職支援開発センター等を活用する教職支援
- ・個別的、具体的な相談

(4) 教職支援の3つのタイプを活用した課題対応

下記5点の課題のうち、②③④⑤については、教職自主サークルの活動を工夫することで対応できるのではないかと考え、実践した。

- ①様々な情報が一元化されていない→
4) 教職支援サポートブック（リーフレット版）を作成
3年生の教育実習事後指導で配布、活用、情報提供
学生を掲載する工夫、教員への啓発もあり
- ②個別対応には限界がある→
集団で行うことが可能な教職支援は参加型（教職自主サークル）または日常型で行うようにする。
- ③学生が教員に依存してしまう傾向→
お互いが支え合う学生集団をつくる。
教職自主サークル等で、学生の主体性を育てる。
- ④他学部の学生への情報周知や支援…授業を通して、個別に声かけし、教職自主サークルに勧誘
- ⑤卒業生との交流、卒業後のフォローアップ

3 教職自主サークルの新たな展開

今年度の4年生は、3年次の教育実習事後指導で教育学部生全員に対して、進路選択への迷いを軽減するため、教職支援に関する情報提供のプレゼンテーションを実施した。その際に、教職自主サークルの紹介も行い、そのためか、前年度の10月時点での参加人数を大きく上回った。（2013年度：16名、2014年度：54名）また、3年生の10月時点で、工学部、経済学部、医学部看護学科の学生が参加することも2013年度までにはない状況であった。

2014年度11月に、4年生の世話人の学生が4年生全員を対象として、教職自主サークルについてアンケートを実施し、そのアンケート結果を基に、学生の声を生かした企画・運営を行ってきた。以下では、2014年度後期と2015年度前期に行った教職自主サークルの新しい活動について述べる。

(1) 「在校生と卒業生との交流会」（3年生の12月実施）

「実際に教職に就いている先輩教員（卒業生）から仕事のやりがい等についての話を聞きたい」という学生からの要望を実現させた企画である。

小学校の現職教員（2年目、女性）、中学校理科の現職教員（5年目、男性）を講師に迎え、「教師になるということ－先輩から後輩へ－」という演題でお話しいただき、質疑を行った。特筆すべきは、教員採用選考試験に向けて勉強をしている3年生（43名）だけではなく、4月から教壇に立つ予定の4年生（16名）も参加したことである。教員採用選考試験終了後の4年生にも有効な教職支援となっていることがわかる。

参加した学生の感想を以下に紹介する。なお、以下の学生の感想はすべて、プライバシーに配慮し、個人が特定されないように、一部改変している。

- ・先生をしていてよかったことを現職の先生から具体的に話していただき、やはり先生っていいなあと思ったので、参加してよかった。
- ・若い先生の生活が詳しくわかった。たくさん不安なことはあるが、他の先生方に相談にのっていただいたり、年齢の近い先生方と話したりするとよいと教えていただき、少し安心した。

当日参加できなかった学生や小学校と中学校両方の話が聞きたかったという学生には、本会の様子を撮影したDVDを貸し出した。このアイデアも世話人の学生の発案である。教職自主サークルに参加できなくても、就職資料室に行けば、配布資料を後日もらえるというシステム（写真3）も学生からの要望を世話人の学生が実現したものである。その背景には、前述した4年生へのアンケートに、「教職自主サークルに参加できなかった時の資料を後日もらいたかった」という意見がある。

企画にあたり、まず、世話人の学生と交流人事教員で互いにすべきことの役割分担を確認した。その後、世話人の学生が各研究室の代表者とともに講師の候補者をリストアップし、先輩教員へメールやLINEで講師依頼をした。世話人の学生の仕事を明確化し、任せることで責任



【写真3 就職資料室にある教職自主サークルの資料BOX】

をもたせたり、賞賛し、次への意欲化につなげたりすることができた。

また、講師となった若年教員は、「学生の前で話すことで、自分の今までの教員経験を振り返る貴重な機会となった。熱心に話を聞いている学生に恥じないように明日からも子どもとともにがんばっていきたい。」と述べる等、学生だけではなく、若年教員にも有意義な時間となった。この会の前後で、若年教員が大学時代のゼミ担当教員とも交流する等、卒業生のフォローアップの役割も果たしている。

（2）次の世話人の人選（3年生の3月）

4年生の世話人4名と交流人事教員3名で相談し、次年度の世話人を選んだ。その際にも「教育学研究室が主催だと思っていた」、「自分の研究室はあまり参加していなかったから参加しにくかった」という前述のアンケート結果を踏まえて考えた。人選にあたっては、この学生のリーダー性をもっと伸ばしたい、この学生が世話人になったらその研究室の学生が多く参加するだろう等、4年生の世話人や交流人事教員の願いが根底にある。また、他学部の学生の参加も多かったため、「香川大学全体の教職自主サークルにしたい」という意図もあり、初めて医学部看護学科の学生（1名）も含めた世話人（5名）を選んだ。

4年生の世話人が自主的に3年生の世話人に声をかけ、客員教員のもとと一緒に挨拶に行く等、仕事内容の引き継ぎが代々行われており、卒業した世話人とのネットワークも存在する。このネットワークが後述の会を企画する際に大いに役立った。

（3）教職自主サークルの部屋を貸与（4年生の4月）

新たな世話人は、様々な研究室に所属していたり、他学部の学生もいたりするため、打ち合わせをする場所に困っていた。また、先輩の世話人から引き継いだ教職自主サークルの各種資料の保管場所にも困っていた。教職自主サークルの部屋を貸与していただいたことで活動の幅

が広がり、活動しやすくなった。その部屋にはコピー機があるため、模擬授業対策の準備をする際にも便利である。

交流人事教員は、世話人の自主性に任せながらも部屋やコピー機の使用に関しては、管理責任が伴う。そこで、教職自主サークルの部屋の鍵は教員が管理し、必要時に教員のところに鍵を借りに来て部屋を使用する等、部屋とコピー機使用に関するルールを定め、遵守を呼びかけた。なお、参加学生の氏名、電話番号、メールアドレス、志望自治体や校種、教科等、学生に関する個人情報（2015年度の参加学生：94名）もたくさんあるため、それらに関しては教員の研究室で管理することにした。鍵や部屋の責任者である交流人事教員が異動する際には、他の交流人事教員に引き継いでいくシステムにした。異動を伴う交流人事教員が卒業生を含む、参加学生の個人情報をいかに厳正に管理していくかが今後の課題である。

（4）松楠会からの活動支援金（2015年度初）

2015年度以前は、教職自主サークルの活動資金は0円であった。外部から講師を呼んでも謝金が出せない状態で、断念せざるを得ない企画も出てくる。

そこで、香川大学教育学部の同窓会組織である松楠会の支援事業に企画書を提出し、活動資金を支援していただいた。松楠会では、学部生や若年の卒業生を含む若年会員と松楠会とのつながりをもたせたいという従来からの課題があり、教職自主サークルへの活動支援は、その課題を克服することにもつながる。松楠会からの活動支援により、活動の幅が広がり、学生の自由な発案を実現させることにもなる。ぜひ、今後も継続していきたい。

（5）「先輩教員から学ぶ会」（4年生の7月実施）

学級担任をしていた頃、生徒指導上のことで養護教諭から貴重な情報をいただく等、ありがたかった経験を今でも覚えている。そこで、教員を目指す学生に、養護教諭との連携を大切にする学級担任になってもらいたいという願いか

ら、附属坂出小学校の養護教諭を講師に迎え、本会を企画した。また、今年度の教職自主サークルの大きな特色は、教育学部の学生（79名）だけでなく、医学部看護学科の学生（7名）等、他学部の学生（工学部1名、経済学部1名、農学部3名）や大学院生（5名）も積極的に参加したことである。前述の課題④（他学部の学生への情報周知や支援）をクリアする第一歩ともなっている。講師である養護教諭は、小学校と中学校の勤務経験をもち、第一部を学級担任向け、第二部を養護教諭向けとし、本会を二部構成にすることで、志望校種など多様な学生のニーズにも応えることができると考えた。

企画のスタートは、交流人事教員が行い、その後の企画・運営は世話人の学生に任せた。世話人でもある看護学科の学生が、養護教諭志望の3年生にも自主的に声をかけ、本会に参加した。来年度も看護学科の学生が教職自主サークルに参加するであろう。

参加した学生の感想を以下に紹介する。

- ・子どもに応じた対応が求められるため、子どもの話を真剣に聞くことが大切だとわかった。学校全体で一貫した指導を行うためにもしっかりと連携していきたい。
- ・不登校の子どもとのかかわりには連携が大切である。事例をあげて話をしてくださり、学校の様子を詳しく知ることができ、勉強になった。

企画・運営を通して、熱心に受講している学生の姿や世話人の学生の成長を目の当たりにし、頼もしく思えた。

（6）「先輩教員に模擬授業を指導していただく会」（4年生の8月実施）

今年度、教職自主サークルの活動支援をしていて課題となったのは、参加する学生の人数が多く、その学生を指導する教員の人数が不足していることである。交流人事教員3名だけでは、指導が行き届かない。そこで、2014年度、

2015年度の年度当初に教育学部内の教員の研究室を世話人の学生が訪ね、教職自主サークルの指導を依頼した。そのおかげで、教職自主サークルにかかわっていただける教員が増加した。

2015年度5月下旬には、卒業生である4名の若年教員が運動会の振替休日に大学に来て、ゼミ教員らと交流するだけでなく、教職自主サークルに参加し、後輩学生の模擬授業を指導してくれた。このことから教職自主サークルの活動日が月曜日に設定されていることには意味がある。今後も多くの卒業生が指導に来てくれることを期待する。

教職自主サークルの活動支援において、模擬授業の指導をする際には、校種別、教科別に模擬授業を実施するため、より多くの指導教員が必要になる。せっかく、学生は熱心に模擬授業の練習しても一人の教員が複数の教室を巡回指導するため、学生の熱意に応えられない状況であった。

そこで、卒業生が学校行事の振替休日に指導に来てくれたことをヒントに、教員採用選考試験の二次試験に向けて、本会を企画した。

当日は、卒業生を含む現職教員12名（過去の交流人事教員を含む）に学生の模擬授業を指導していただいた。現職教員への依頼は、前述した世話人のネットワーク、過去の交流人事教員のネットワークを最大限に生かし、メールやLINEを活用した。

参加した学生の感想を以下に紹介する。

- ・現職の先生方のアドバイスがとても参考になり、感謝している。現職の先生方に模擬授業を見ていただくとやる気が倍増する。来年、先輩のような先生になりたいと憧れた。
- ・現職の先生方に模擬授業を見ていただき、学生同士では気が付かない細かい点から基礎基本のことまで、しっかりと教えていただいた。とても有意義な会となり、このことを生かして、本番の試験に向けてがんばりたい。
- ・実際に学校で授業をされている先生方、

まさに、その授業をしたことがある先生方からの確なアドバイスをいただき、本当に役立った。ぜひ来年は後輩のために、また、自分の勉強のためにも、この会に参加したい。

現職教員の感想を以下に紹介する。なお、以下の感想は、過去の世話人や過去の交流人事教員の感想も含んでいる。

- ・一生懸命にがんばっている姿が印象的である。私自身もとても勉強になった。2学期からもがんばろうと思った。今後も教職自主サークルのバックアップをしていきたいと思う。
- ・自分もまだまだ未熟なので、後輩に教えられることは少ないが、今日、指導したことが何かに生かされたら、うれしい。後輩の模擬授業を見て、改めて授業を見てもらうことの大切さを再確認することができた。
- ・教職自主サークルの充実ぶりが感じられ、うれしく思った。学生が大変意欲的に取り組んでいて感心した。また、卒業した先輩（若年教員）のアドバイス内容にも感心した。自分の経験を踏まえ、とても具体的にアドバイスできていた。今日は、学生にとっても卒業生にとってもよい機会となった。私は学生と卒業生両方の成長した姿を見ることができて、うれしくなった。

学校で様々なことに対応し、日々、尽力している若年教員も久しぶりに大学時代のなまや教員と再会することで、2学期からのやる気の再確認にもつながった。また、後輩に模擬授業の指導をすることで自己肯定感も高まり、指導を受ける学生にも指導する現職教員にもメリットのある有意義な会となった。

当日は、小学校では香川県の水泳記録会と、中学校では四国総体と重なり、今後、この会を

継続していくためには、日程の設定が課題である。

4 教職自主サークルの役割と意義

「顔の見える教職支援」における学生とのかかわりは、以下の5段階に分類できる。

第1段階は、「授業でのかかわり」である。授業の中で、活動や授業態度を認めたり、出席表にコメントを記入したりすることを通して、顔と名前が一致する学生の数を増やしていく。

第2段階は、「教職自主サークル」でのかかわりである。集団討論や模擬授業の練習を通して、学生の進路希望や実態に応じた指導・助言を行う。

第3段階は、願書や小論文の添削指導、進路の悩み相談等、「個別のかかわり(1)」である。このように、第1、第2段階を踏まえ、学生と教員との信頼関係を構築することで、学生が各教員の研究室に個別相談に訪れることが可能になる。

第4段階は、教員採用選考試験後、教員になるにあたっての個別相談等、「個別のかかわり(2)」である。2013年度から実施している「卒業前対策講座」もこれに属する。

そして、今年度から模索を始めた第5段階は、「卒業してからのかかわり」である。卒業後のフォローアップも兼ねて実施した「在校生と卒業生との交流会」「先輩教員に模擬授業を指導していただく会」は、在校生、卒業生、そして送り出した教員にとっても有意義であった。

教員採用選考試験は個人戦でもあり、団体戦でもある。一次試験の筆記試験は個人戦である。しかし、どのような参考書や問題集を使って、筆記対策をしてきたのか、いつぐらいから勉強を始めたのか、1日の過ごし方等の情報は、教職自主サークルに参加することで、先輩から教えていただいたり、なかま同士で情報交換したりしている。また、筆記試験対策に行き詰まってもなかま同士で息抜きをしたり、励まし合ったりしながら、目標に向かって、ともに

がんばっている。

集団討論、模擬授業対策は、一人ではできない。そのため、教職自主サークルで出会ったなかまとチームを組んで練習する。人間発達環境課程の学生が国語研究室のなかまと工学部の学生が理科研究室のなかまとチームを組んで、模擬授業の練習をしている光景をよく見かけた。また、自分が志望する教科の学生が少ない時には、異なる教科でのチーム編成を世話人の学生が勧め、コーディネートしてきた。チームでのがんばりを通して、学生の新たな人間関係を構築し、教員採用選考試験突破だけではなく、教員になってからも互いを支え合う集団づくりにもなっている。

教職自主サークルの世話人は、自分の勉強だけではなく、学生への周知・連絡、各種資料の準備、各会の企画・運営、交流人事教員との連絡・調整等、仕事は多岐にわたる。活動を通して、世話人の学生の著しい成長ぶりに目を見張る。教職自主サークルは、世話人をはじめ、参加している学生の自主性を育成するという役割も担っている。このように、これからの教職自主サークルには、教科、課程や学部を越えて、教職自主サークルという一つのチームとしての役割が期待されている。

学生の主体性を育てながら、「顔の見える教職支援」をより充実させるためには、教職自主サークルという一つの学生集団を中核とした集団へのアプローチ、個へのアプローチが有効であることがうかがえる。

5 おわりに

交流人事教員は、大学では、授業や教職自主サークルを通して、教員のやりがいを伝えたり、教職支援を行ったりしてきた。そして、交流人事教員は、3年間の任期が終了すれば学校に戻り、教職支援でかかわった学生と同僚になる可能性がある。同僚としての卒業後のフォローアップのあり方が今後の課題でもあり、楽しみでもある。

学校に戻ってからも別の形で、教職自主サー

クルの教職支援活動にかかわっていききたい。

参考文献・参考資料

- 植田和也・大西えい子・池西郁広・谷本里都子 (2014)
交流人事制度10年間の振り返り－香川大学の交流人事における特色と全国の様相－
香川大学教育学部研究報告第I部, 第141号, 101-113頁
- 宮前義和・植田和也・七條正典・毛利猛・池西郁広・谷本里都子・高木愛・宮前淳子・山本木ノ実 (2015)
香川大学教育学部における日常の教職支援の活用に関する調査
香川大学教育実践総合研究, 第30号, 115-123頁

註

- 1) 植田和也 (2007) 教員養成における交流人事教員の役割と課題－実践的指導力の育成をめざして－日本教育大学協会研究年報 第25集
- 2) 保坂亨 (2015) 教員養成における交流人事教員と実務家教員の役割, 基盤研究C
- 3) 2013年度, 2014年度「教職を目指す学生への支援体制の構築に関する研究プロジェクト」(香川大学教育学部附属教育実践総合センター)
- 4) 香川大学教育学部教職支援作成の「先生になる夢をかなえるサポートブック」(リーフレット版)
デザイン: 高木愛, 文: 谷本里都子
(資料編参照)

付記

本論文は, 2013年度, 2014年度の附属教育実践総合センター研究プロジェクトとして行われた際の宮前, 植田, 谷本等の配布資料を参照している。研究プロジェクト委員は以下の通りである。

研究プロジェクト委員

《2013年度》(所属は当時)

七條正典, 植田和也, 宮前義和, 松井梨奈(附属教育実践総合センター) / 毛利猛, 池西郁広, 大西えい子, 谷本里都子, 宮前淳子, 片岡元子, 惠羅修吉, ポール・バテン, 黒田勉, 山

下明昭(香川大学教育学部) / 大嶋和彦(附属高松小学校) / 太田雅子(附属坂出小学校) / 大西小百合, 大西光宏(附属坂出中学校) / 清水一郎(附属高松中学校) / 浦野陽子(附属幼稚園高松園舎) / 山本木ノ実(香川県教育センター)

《2014年度》(所属は当時)

七條正典, 植田和也, 山岸知幸, 宮前義和, 松下幸司, 松井梨奈(附属教育実践総合センター) / 毛利猛, 池西郁広, 谷本里都子, 高木愛, 宮前淳子, 片岡元子, ポール・バテン, 黒田勉, 山下明昭(香川大学教育学部) / 河田祥司, 吉原聖人(附属高松小学校) / 山路晃代(附属坂出小学校) / 大西小百合, 伊賀梨恵(附属坂出中学校) / 赤熊俊二(附属高松中学校) / 浦野陽子(附属幼稚園高松園舎) / 山本木ノ実(香川県教育センター)

(参考資料)

教職自主サークル

2014年10月20日(月)

○前期活動内容

- 日時 毎週月曜日18:00~19:30
- 場所 811教室(8号館)
- 活動 集団討論、模擬授業、集団面接、ロールプレイなどの教員採用試験対策
吉本聖子先生、谷本聖子先生、高木聖先生の講話 等
- 日録(予定)

10	27	第1回	ガイダンス
11	3	休み(季節の振り返り)	
10	10	第2回	教員合格者からの話
17	第3回	集団討論に向けて(谷本先生講話)	
12	1	第4回	集団討論①
8	第5回	集団討論②	
15	第6回	模擬授業に向けて(池田先生講話)	
22	第7回	模擬授業①	
冬休み			
1	12	休み(成人の日)	
19	第8回	論文対策	
26	第9回	ロールプレイに向けて(高木先生講話)	
2	第10回	集団討論③-集団面接	
9	第11回	模擬授業②-ロールプレイ	

上記の予定は変更になることがあります。次の活動内容については、その日の活動終了後予告します。
※内容について
集団討論は5-8人で行われる1課題について意見を交換する
席1つ1つについて、必ず発言を求められていく
模擬授業は5-10分程度に1テーマで行われ、授業録音も、5-10分程度で授業録音も
※10月 学習環境で想定される課題(準備) 朝のまでに行われる

4/履修(ローマ字1日にします)!!
目的の履修に落ちるのではなく、履修に積極的に立ち向かっていこう!

教職自主サークル

○後期活動内容

- 日時 毎週月曜日18:00~19:30
- 場所 教授法演習室
- 活動 集団討論、集団面接、模擬授業などの就職試験対策
谷本聖子先生、高木聖先生の講話 等
- 日録(予定)

4	13	第1回	ガイダンス・集団面接
20	第2回	松井先生の講話	
27	第3回	就職試験についての講話(谷本先生)	
5	4	休み(子どもの日)	
11	第4回	模擬授業①	
18	第5回	模擬授業②	
25	第6回	模擬授業③	
6	1	第7回	集団討論についての講話(谷本先生)
8	第8回	集団討論①	
15	第9回	集団討論②	
22	第10回	集団討論③	
29	第11回	集団討論④	
7	6	第12回	集団討論⑤
13	第13回	集団討論⑥	
20	2	休み(満の日)	
27	第14回	(参加者の意見に合わせて実施。要望・意見をお願いします。)	

※上記の予定は変更になることがあります。
次の日の活動内容については、その日の活動終了後、予告します。
5 その他 体育の資格講習は5月を以て開始する予定にしています。日時は未定で、場所は教育学部の体育館で行う予定です。実技の内容は各自自治体の実技試験となっている科目が中心になります。自分の受けようとしている自治体が、どのような実技試験を実施しているかを把握して、今のうちから練習していきましょう。

卒業前対策講座資料集



学籍番号	
氏名	

担当: 谷本聖子

授業参観・学級懇談会のアイデアとポイント

Ⅰ 授業参観

(1) 教室環境の整理

★教室環境を見れば、そのクラスの雰囲気、落ち着き具合がわかる!

①教室や廊下の清掃

教室の清掃が行き届いているクラスは落ち着いている

- 「教室の扉はみんなの心を映す鏡」by 谷本先生
- 授業参観に来られた方々、保護者の方々は授業よりも先に教室環境を観察する。
- (例) 机は整列の入り口のレールの掃除が行き届いているか
- ・清掃用具はきちんと揃っているか 一見しないところにも気配り

②教室用品の整理整頓

①テレビ、DVDデッキ(チャックの約集みはなくなっている) 整理整頓

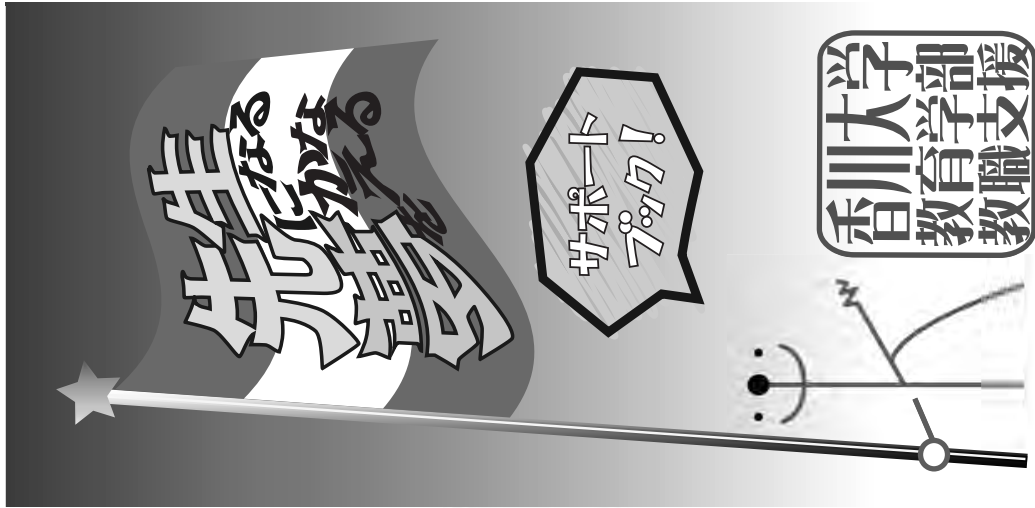
②机、机脚、机脚板(机脚板は机脚板の横(指板)が伸びている?)
③机のフック、時計掛板、氏名プレート(全員がきちんとあるか?)
④机の配列、椅子、机の傾斜、びく箱(きれいに)、ビニール袋セット(てんとう虫の網、イスの裏と机脚板の隙間に敷き、机の穴で机脚板と机脚板を固定する)。
⑤机のフック、机脚板、机脚板の隙間に敷き、机の穴で机脚板と机脚板を固定する。

⑥椅子のロッカー……学校や学年によって、ロッカーの使い方の指がある
例、そのようにロッカーに入れて、何を机の横につける等の指がある
例、机の横にロッカーを置いて、机の横にロッカーを置く等の指がある

★机のロッカーの有効利用……机の横に置いて、机の横にロッカーを置く等の指がある
例、机の横にロッカーを置く等の指がある

★★後ろのロッカーの上を見ればそのクラスの健康度がわかる!
後ろのロッカーの上には名前を貼らない(指板がない)
例) 学級文集、絵の冊子、水筒、家庭セット、部活動のユニフォーム、自転車のヘルメット 等の取っ手がよいもの、取っ手がよいものも机の横に貼る指がある

↓
学校や学年での共通指あり



★日常型 教職支援★

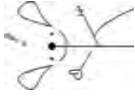
①教員採用試験に関する授業

【小学校・中学校・高等学校志望者におススメの授業】

教育法規入門
学級経営論
教職の総合的研究
授業実践論

【養護教諭志望者におススメの授業】

教職概論（口）



②教職に関する施設や情報揭示場所

→ MAPを参照

【附属教職支援開発センター】

教科書、指導書、道徳副読本、DVD等の閲覧
※平日 10:00～17:00（土日・祝日は休み）

【就職資料室】

教員採用試験の過去問（各自治体それぞれあります！）
教採対策情報雑誌等の貸出 → 貸出は学務係まで
教職自主サークル資料（ご自由に）
※授業実施期間中の月～金曜日の 8:30～18:00
（休業期間中は月～金曜日の 8:30～17:00）

【模擬教室（二十四の曜）】

模擬授業ができます
（算数セツト、コンパス、地図等の教員も使えます）
教科書、指導書の閲覧
※入退室には学生証が必要（21:00には退室のこと）

【学生自習室】

静かな環境で自習ができます
※入退室には学生証が必要（21:00には退室のこと）

★参加型 教職支援★

①ガイダンス、就職セミナー、説明会

基本的には水曜日午後に関催（学務係よりメール有）

②就職連絡報告会

幼稚園・保育所等志望者にむけた採用試験等につ
いての報告会（12月開催予定）

③教職自主サークル

学生主体の教員採用試験突破にむけた勉強会
月曜 18:00～19:30、教授法演習室

④教員採用試験の模擬試験

基本的には水曜日の午後、教育学部生は割引有！

⑤卒業前直前対策講座

2、3月に実施、4年生、大学院生対象
（4月を兼ねるために、道徳教育対策、小学校英語対策等）

※「卒業生と在校生との交流会」

→ 教職に就いている卒業生との交流、年2回程度実施
先輩に採用試験や学校現場の話を聞くことができるチャンス！

★活用型 教職支援★

＜願書の添削、悩み相談等＞

【各教員への事前の予約が必要です】

【願書の添削指導手順】

1. まずはゼミの担当教員の指導を受ける。
2. 8号館4階の教員スケジュールボードを見て、指導を受けたい教員の研究室を訪れ予約を取る。
3. 予約日時の前に願書のコピーを渡しておく。
4. 予約日時に指導を受ける教員の研究室を訪れ、指導を受ける。